



1_りんとした姿で市民憲章を読み上げる新成人／2_家族と一緒にカメラの前でポーズ／3_肩をたたき合い、同級生との再会を喜ぶ／4_懐かしい仲間たちと記念の日を写真に納める／5_色とりどりの振り袖で式に参加する新成人の女性たち／6_「そんな気がするんだ」を肩を組んで歌う／7_「一関に関するクイズ」を楽しむ／8_記念行事の様子をスマホで動画に収める新成人／9_新成人を代表して決意を述べる玉澤吉弘さん／10_華やかな髪飾りが会場を彩る／11_会場を沸かせた恩師からのビデオメッセージ



未来を見据える若者たち

1027人の新成人が
晴れの門出を祝う

「平成30年一関市成人式」は1月7日、市総合体育館（ユードーム）で行われ、新成人が大人への一歩を踏み出した。

今年の対象者は、市内在住または本市出身の1997年4月2日～98年4月1日生まれの1212人。このうち1027人（男552人、女475人、出席率約85%）が晴れの日を共に迎えた。

正午をまわると、スーツや紋付きはかま姿の男性や、色とりどりの振り袖で着飾った女性たちが次々と会場に到着。友人との再会に喜ぶ新成人たちで会場は華やかな雰囲気にも包まれた。

式典で勝部修市長は「皆さんが誇りと愛着を持てるまちにするため、各地域の特性を生かしたまちづくりが必要。生まれ育った地域に目を向け、関心を持ってほしい。笑顔忘れず、皆さんの大事な青春の日々を送ってください」と式辞を述べた。

新成人を代表して玉澤吉弘

さん（藤沢町）は「大人としての自覚を忘れず、思いやりの心を持って社会や一関に貢献したい。つらく逃げ出したくなるときこそ諦めず努力し、それぞれの目標に向かって邁進することを誓います」と決意を述べた。

新成人たちは、真つすぐに前を見つめ、未来への決意を新たにしていた。

式典に続いて、成人式企画実行委員会（佐藤龍之介委員長）による「記念行事」が行われた。

最初の企画は「一関市に関するクイズ」。「一関のシンボルの花」や「かつこう団子の名前の由来」などの4択問題に新成人がチャレンジした。ビデオレターの上映では、中学校時代の恩師が映像で登場。新成人たちは、思わず笑ってしまふような話や温かい激励に聞き入った。

記念行事の中では奥州市出身のシンガー・ソングライターの松本哲也さんが出演し、「一関市成人式の歌」を熱唱。新成人は隣同士肩を組み、松本さんと一緒に曲を口ずさんだ。

周りを気にせず好きなことにチャレンジしよう

23年の成人式企画実行委員会と一緒に一関市成人式の歌「そんな気がするんだ」を作った以外にも、FMあすもで数年間レギュラー番組を担当したりライブで訪れたりするなど一関は縁があるまちです。

一関はおいしいお店もいっぱい

あるし自然も多く素朴さもある。いろんなものがそろっているまちだと思います。

20歳はまだいくらでも失敗できる年齢。新成人は周りを気にせず好きなことにチャレンジしてみてください。



Matsumoto Tetsuya

profile 松本哲也（まつもと・てつや）
奥州市生まれ。シンガーソングライター、希望郷いわて文化大使、さんりく・大船渡ふるさと大使。「いわて三陸復興食堂」のプロデューサーを務めるなど復興活動にも精力的に取り組む

若者たちの未来

気持ちも新たに、大人への一歩を踏み出した新成人たち。
成人式で再会を喜び合い、
それぞれが自らの未来と向き合った。